

東洋医療を考える会

発行元:NPO 法人 東洋医療を考える会

住所 渋谷区代々木2-39-7 メゾン代々木20号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-525

メール iryo-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp

ホームページ <http://npo-iryo.org/>



鍼灸マッサージを健康保険で受けられるように改善署名を提出

健康保険制度改善の実現を願って

田中 榮子

○患者さんはじめ、多くの皆様に熱心に集めていただいた「健保改善署名」を6月10日、海江田万里衆議院議員を通じて、衆議院に提出する事ができました。

東京、大阪の皆様の署名を中心に21,248名の方々の署名をいただきました。「健康保険で鍼灸マッサージ治療にかかりたい」という要望は、長らく多数の国民の皆様から寄せられていました。

○「NPO 東洋医療を考える会」は2013年より「一般社団の会」とも協力して署名活動を始めました。東洋医療のおかれている理不尽な実態を理解してもらえるよう、様々な団体や個人を訪問しました。

パーキンソン病友の会、難病団体協議会、リウマチ友の会、職業病対策協議会、全日本民主医療機関連合会、社会保障推進協議会、新日本医師協議会、東京保険医協会、全日本年金者組合等です。皆さん一日も早く実現してほしいと協力してくださいました。

○鍼灸が中国から日本へ伝わってきたのは、西暦701年大宝律令(1450年前頃)の頃と言われています。日本に伝わってきてからは、日本人に合うように工夫、改良され、一般市民に利用されてきました。近年も東洋医療を利用したい人の増加は止まりません。ここで「健康保険制度」での適用が、国民の要望に追いついていないことがわかります。

現在の日本は言うまでもなく、一人一人、国民が主権者です。

『「医療」において、西洋医療でも、東洋医療でも本人の望む医療を受けることは、「日本国憲法」からも当然のことである』と、金沢大学名誉教授の井上英夫先生は度々、発言されておられました。

○長年「健康保険制度」は、西洋医療を主にした適用が行われてきました。

作今、健康維持、増進のためにも、東洋医療を「健康保険」で利用できるようにしてほしい」という要望が強まっている事実があります。

患者、国民、私たちはこの願い実現へ向けて「健康保険制度を」を当たり前に充実していく検討を、患者さんはじめ多くの関係者と進めていきたいと思います。

これは、民主主義を多くの国民のものにする一つの行動ですね。確信をもって歩んでいきましょう。



「患者さんの声」

沼田よし子さんより

2025年9月10日

ずっと以前、漢方の藤木先生から教えを受けた、私の職場の同僚たちが鍼灸師となって活躍しています。

私はその頃からずっと鍼灸師さんのお世話になっていて、今年89歳になりました。

病気も沢山あって、お薬も沢山飲んでいますが、月2回、鍼灸師さんの診察と治療を受けることで、安心して生きていられます。

みんなの健康を守ってくれる東洋医学が健康保険に適用され、健康保険で鍼灸治療が利用できる日が、一日も早く実現される事を願っています。



衆参厚生労働委員長へ訪問

清水一雄 令和7年9月10日

6月10日に東洋医療である、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧を医師の同意書無しで受けられるようにすることを要望した署名21,248筆を海江田万里衆議院議員に請願として提出しています。

今年6月国会では審査未了につき厚生労働委員会に審議が付託することになっています。

10月に予定されている国会にて請願採択するためにも厚生労働委員会でクローズアップされなければなりません。そのためにも一般社団法人鍼灸マッサージ師会との共同で衆参厚生労働委員長との対談をしてきます。

日時：9月29日（月）13時30分

場所：衆議院第二議員会館

東京都千代田区永田町2-1-2

訪問先：藤丸敏衆議院議員（厚生労働委員長）アポイント14時

次に本田顕子参議院議員（厚生労働委員長）

「体験マッサージ」のご案内

日時：10月23日（木）1時～3時

11月20日（木）1時～3時

会場：千駄ヶ谷社教館 3F 和室

お1人の体験時間は20分～30分です。その際、若干の代金をいただいております。

国家資格を有した先生方がみなさまのご相談にのり、治療を体験していただきます。

是非、ご利用ください。ご連絡はNPO事務局 TEL: 03-3375-6151 までお願ひいたします。

YMO 音楽家故坂本龍一(1952-2023)氏と東洋医療の接点

2025年9月20日 山西 俊夫

年を重ねて精神的に余裕ができたせいでどうか・・・去年12月31日の紅白歌合戦を何年かぶりで初めから最後まで視聴をやらかしました。

珍奇なグループ「新しい学校のリーダーズ」からスタートして、トリは「MISIAと矢野顕子」の歌とピアノのコラボで、特にピアノを弾く矢野顕子の昔と変わらない元気のいいこぼれるような笑顔が印象的でした。

待てよ・・・矢野顕子といえば一時期坂本龍一とニューヨークで事実婚をしていたのではなかつたか・・・坂本龍一をウィキペディアで検索したら、配偶者 矢野顕子(1982年-2006年)、子供2人とある。作曲家、編曲家、ピアニスト、音楽プロデューサー、俳優、東京芸術大学2年のときに2歳年上の女性と結婚し、長女ができたが離婚する、幼げで端正な風貌にしてかなりの発展家であり天才であることがわかる。

坂本龍一のことはYMOの時代から枠にとらわれない生き方に人間的な魅力を感じており、不幸にもガンの転移との闘いにより71歳で亡くなる前に雑誌「新潮」でのインタビュー記事をまとめた「ぼくはあと何回、満月を見るだろう」の彼の著作を読んで、彼も東洋医療を体験したのを知って改めてその生きざまに興味を持ちました。

著書の第5章「初めての挫折」で東洋医療の野口整体との出会いをしたためています。最初に老いを感じたのは、42歳のとき老眼になってしまったことに気づいた瞬間でしたが、その数年後、シンガーソングライターの大貫妙子さんのアルバム制作に久しぶりに関わることになり、ニューヨークでのレコーディング最終日に開いた打ち上げパーティーで、大貫さんが手相を見せてと言って見た

彼女から「あなた、このままじゃ先が長くないわよ」と真剣そのものに宣告されたそうです。

(自分:体の異常って手の相に表れるものかな・・・)そして、一つだけ助かる方法があると教えられたのが野口整体だったとのこと。彼はそれまで、整体はおろかマッサージすらろくに受けたことがなかったのに、大いに好奇心をそそられて、その「最後の手段」である野口整体を受けてみることにしたそうです。

元来ハマリ症の彼は、その時点で手に入る野口晴哉の本をすべて買い込み、読破したそうです。この頃には理解が深まるにつれ、体調が確かに良くなるように感じられたと記しています。

「どんな過酷な環境でも生き抜いてやる」というのが彼の昔からの信条で、実際、生命力に満ち溢れていた若い頃は3日連続で徹夜しても平気だったそうです。16時間ぶっ続けで仕事をしても集中力が落ちることはなく、毎晩深夜の1時や2時までスタジオに籠り曲を作っては、それから街へ出て朝まで飲み歩く。そこからスタジオへ戻って、再び作業なんてこともよっちはうだったそうです。(自分:医療の治療の枠を超えているのでは・・・)



野口整体を中心に、これまでの生活を見直してからの約20年間は、多少の体力の衰えはある、健康に過ごしていたとのこと。風邪をひいても病院へは行かず薬も飲まず、足湯で治していく、それで何事もなかった。

何度か受けた人間ドックでもずっと異常はなかったといいます。

だからどこかで油断していたかもしれないとも・・・2014年6月、ちょっと喉に違和感があるなと思い、久々に病院へ行って精密検査を受けたら、中咽頭癌だと告げられてしまった。まさか自分が、信じられない思いだったそうです。

ニューヨークでの治療を決めてからも迷いが生じました。

それは西洋医療を選ぶか、代替医療（東洋医療）を選ぶのか、ということです。彼は長いこと代替医療に傾倒してきました。周りの人たちにも自然派の治療法を強く進めてきた。しかし、ガンについては調べれば調べるほど、これが非常に強い病気であることが分かってきます。

代替医療で中途半端に叩くと、より凶暴になって仕返ししてくる。だから、まずは西洋医療で対処し、免疫力が落ちるところを代替医療でバックアップするという複合的な方法を取ることにしたそうです。どちらか一方だけで十分だとは思えませんでした。

西洋医療の強みは、外科手術をすればこの確率で改善する、抗癌剤治療だとこの確率、放射線治療だとこの確率といったように、過去のデータに基づいたエビデンスが西洋医療の方がはるかに蓄積されているのは間違いないかもしれませんと彼は述べます。

西洋医療の中心地であるアメリカは、同時に代替医療の中心地でもあるそうです。国民皆保険制度がいまだに実現しておらず、それを推し進める政治家が極左扱いにされてしまうようなアメリカでは、ちゃんとした癌治療を受けようとすると、医療費がかなり嵩んでしまう。

本当は入院が必要な患者でも、保険会社がその患者に支払い能力がないと判断すれば返されてしまうくらいだそうです。そんなこともあって、比較的安く済む代替医療への期待が大きいのですと彼は説明しています。

さらに、やや意外に思われるかもしれないけど、彼が通院していたニューヨークの癌センターでも、患者向けにハーブや漢方の情報を提供していたり、ヨガのクラスが設けられていたりしたそうです。頼めば鍼灸院の紹介もしてくれる。実は西洋医療と代替医療の距離が、日本よりもずっと近いと言っていいかもしれないと述べています。彼のように併用する人も珍しくないとのことです。

2014年に発覚した中咽頭癌はその後、晴れて寛解したものの、2020年6月にニューヨークで検査を受け、直腸癌と診断されてしまう。同じ年の12月に日本での仕事があり、その頃、物忘れの多さに悩んでいたこともあって帰国ついでに脳の調子を調べておこうと思い、11月中旬から新型コロナウイルスの感染対策のため2週間の隔離を経てから人間ドックを受けたところが、脳は正常だったが、あろうことか別の場所で異変が見つかってしまった。

直腸癌が肝臓やリンパにも転移しているというのです。東京での20時間の手術を受けた後、癌と闘い「治療を受けながらできる範囲で仕事を続けていく」ことを発表した。

東京都知事に明治神宮外苑地区の再開発地区に触れて、「目の前の経済的利益のために先人が100年かけて守り育ててきた貴重な神宮の樹々を犠牲にすべきではありません」と書いて再開発計画の見直しを求めた。

環境活動家でもある坂本さんは黙っていられなかった。2023年3月28日の午前4時32分に息を引き取り、71年の生涯を終えた。家族のひとりが、でも、人の3倍は生きたよね、といったという。

私の読後感・・・・代替医療は未病を治す。過ぎたるは及ばざるがごとし



国会請願活動の緊急報告

山西俊夫



日時：9月29日（月）PM1時30分～5時30分
訪問先：① PM1時30分～2時10分 衆議院第二議員会館
藤丸敏自民党衆議院議員厚生労働委員長
② PM3時50分～5時30分 参議院議員会館
本田顕子自民党参議院議員厚生労働委員長
政策担当秘書 関野秀一氏(薬剤師)

請願者：清水一雄(社)鍼灸マッサージ師会代表理事、清水鏡晴同副代表理事、土田斉知同事務局長、岩下同理事、山口氏、山西 NPO 東洋医療を考える会理事長

これまでの経過：

3月24日 岩下理事の介添えで海江田万里立憲民主党常任顧問衆議院議員を訪問、
請願打合せを行った。私共の請願趣旨に賛同くださり今後のスケジュールの進め方
について貴重なアドバイスと指示を受けた。海江田議員の熱意が伝わってきた。

6月10日 海江田議員に21, 248筆の衆参両院議長への健康保険改善署名請願書を清水代表理事から提出し、海江田議員から6月末国会開会中に提出に向け確かに承ったとの言葉を頂戴した。
海江田議員からの、このような請願活動は両者の利害がWIN WIN でないとうまくいかないとの言葉が印象に残った。
その後、今6月国会では審議未了になり厚生労働委員会に審議が付託されることになった。

9月29日 清水代表理事自ら衆参厚生労働委員長事務所に電話連絡をして面会の約束を取り付けたことにより、PM1時半衆議院第二議員会館に集合し事前打ち合わせを行った。清水代表理事から“あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律第一条 医師以外の者で、あん摩、マッサージ若しくは指圧、はり又はきゅうを業としようとする者は、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許又はきゅう師免許（以下免許という。）を受けなければならない。”の一点に絞り矛盾点について請願しようとの方針が示された。

藤丸敏衆議院厚生労働委員長との会見要旨：東洋医療については深く理解はされていない様子だったが、厚労省は医療費を抑えることしか考えていないので、あいつらを説得しなきゃいけない。あはきの協会で保険適用の判別基準を明確にする必要があるとの発言があった。



議員自身、複数の委員会の要職を兼務されていて多忙なこともあるせいか全体的に空回りの印象を受けたが、初回の面会だったので今後につなげる意味で意義があったと思う。

本田顕子参議院厚生労働委員長政策担当秘書関野秀人氏：



本田議員が不在のため、代わりに政策担当秘書の関野氏が対応してくださり長時間にわたり我々の訴えに耳を傾けてくれた。氏の親切な人柄にもよるが何よりも本田議員同様に薬剤師であることで議論がかみ合うことができ良かった。

清水代表理事始め全員が意見を述べて盛り上がった。私も患者の立場から、自らの一病息災を克服できたのは西洋医療の薬事療法でなく東洋医療だったこと、高齢者に保険医の同意書を求めるのは酷であること、そもそも東洋医療について専門外の保険医（西洋医療）に同意書の発行を求めることが自体に無理があること、明治維新以来の日本の医療は硬直化しており米国と比べて遅れていると持論を述べた。

2時間余に渡り最後まで真摯に向き合ってくださった関野氏には感謝し手ごたえを感じることができた。

今回の国会への請願行動で立法府との距離がぐっと近くなった思いがしたのは私だけではないと思う。



面会後の感想：「叩けよ、さらば開かれん」